

阪神・淡路大震災25年に思うこと

公益社団法人 Knots (ノッツ) 理事長 富永 佳与子



昨年、変わらぬ厚情を賜り、本当に有難うございました。本年も温かな理解と支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年、多くの災害が日本列島を襲い、Knotsが本拠とする関西地区でも、大阪での地震や関西国際空港も浸水した台風被害もあり、改めて、ペットとの避難について考える方も増えてきています。環境省では、昨年、ペットの災害対策を「人と

ペットの災害対策ガイドライン」として更新されました。その総説には「災害時におけるペットへの対応とは、飼い主が自らの責任の下、災害を乗り越えてペットを適切に飼養し続けることであり、自治体が行う対策の目的は、飼い主による災害時

の適正飼養を支援することである。同時に、災害という非常時にあっても、ペットをめぐるトラブルを最小化させ、動物に対して多様な価値観を有する人々が、共に災害を乗り越えられるよう支援する」ことである。(https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/a302.html)

飼い主さん向けに、63・5%の犬の飼い主さんが、迷わずペットを連れて避難所に来たという記録が残っています。しかし、実際には、各地方自治体の防災マニュアルへの、ペットの同行避難の反映は、多くの自治体でこれからの課題です。避難所のペット禁止の規定はありませんが、避難所の管理責任者が認めなければ、ペットを受け入れないことは可能になります。

一時避難においても、日頃からペット禁止の公営住宅を担当する住宅関連の部局は、ペット連れも飼い主さん達も顔見知

の家族を同居対象として見失いがちです。前述の調査では、受け入れた避難所56箇所のうち苦情は5箇所だけで、多くの避難所で、人とペット達は問題なく一緒に過ごしていました。そう聞くと、ペットと暮らす人達は、「ほらね！」と心強く思うかも知れません。しかし、24年前、コミュニティはどうだったでしょうか？現在より、近所付き合いがあり、ペット達も飼い主さん達も顔見知

りだったとすれば、お互いの無事を喜び合い、支え合えたかもしれません。今、皆さんのコミュニティは如何でしょうか？ペットとの同行避難は、弱い存在である私達の家族を守り、一緒に災害を乗り越えるということだと思います。同じように、お子さんや高齢者、障がいのある方、病気が家族に

ペットとの同行避難の課題は、改めて、災害時の避難の在り方、その後の復興の在り方を私達に考える機会を与えてくれるように思います。平成最後の年、そして新しい時代が始まる今年、人も動物も一緒に暮らして続けていくために、避けることのできない自然災害をしっかりと乗り越えていける方策を、家庭で、コミュニティで、自治体でもっともつ

を、家庭で、コミュニティで、自治体でもっともつと考える機会を持ちたいものです。

問題を抱える子どもたちのセラピー

ペットが私たちの心を癒すことは、ペットの飼い主である私たちにとっては当たり前のようなことですが、実際には、動物や自然とのふれあいや活動が、人間の健康にもたらす効果を、科学的に証明することは大変難しいことです。

ニューヨーク郊外にある子供の精神治療、特別支援学校であるグリーンチムニーズでは、200を超える動物たちが、250人の子供たちのセラピーのお手伝いをしています。

動物の世話をすることで、多くの子供たちが週に一回、インターンやスタッフとラームにやっています。スタッフと1対1で動物たちと過ごす時間は、自閉症、不安症、多動、不登校など、さまざまな問題を抱える子供たちの、セラピーの一環です。クラスメイトと喧嘩が多く、暴力を振るう子供たちや、勉強が苦手な子供たち、自分の朝ごはんの前に動物の

餌をやったり、苦手の掃除をしたり、体調の悪い動物に手紙を書いたり、やさしい思いやり、やさしい思いやりの気持ちや行動が動物の周りでは見られます。

ほとんどの場合、40分の活動の前後で子供たちの感情の安定度は向上し、子供たちはかなり落ち着いて教室に戻っていきます。

動物が私たちに与えてくれる安らぎ、動物の世話から学ぶ責任感、達成感、子供たちの成長、結果は3-5年後くらいになる見込みです。

長に大きな影響を与えます。その効果を科学的に証明できると、動物たちが私達の社会で果たす役割、立場が大きく変わってくるのではないかと思います。3000-5000のデータポイントが取れるので、大規模な調査となります。

来年は、阪神・淡路大震災から25年になります。ペットとの同行避難の課題は、改めて、災害時の避難の在り方、その後の復興の在り方を私達に考える機会を与えてくれるように思います。

平成最後の年、そして新しい時代が始まる今年、人も動物も一緒に暮らして続けていくために、避けることのできない自然災害をしっかりと乗り越えていける方策を、家庭で、コミュニティで、自治体でもっともつ



公益社団法人 Knots ノッツ・結び目 WEBサイト <http://knots.or.jp>

お話し: 木下美也子さん

Farm Education Program Manager Green Chimneys Farm and Wildlife Center / Sam and Myra Ross Institute* (米国・ニューヨーク州)

公益社団法人 Knots (結び目)は、「人と(ヒト以外の)動物の幸せな共生」をテーマに主に社会教育事業を行っています。Knotsが日頃お世話になっております素敵な皆さまから、メッセージを頂くシリーズです。

2018年の秋からデンバー大学ソーシヤルワーク大学院との提携で、動物の世話をすることが子供たちの感情の自制力に与える影響を調査するためのデータを収集し始めました。

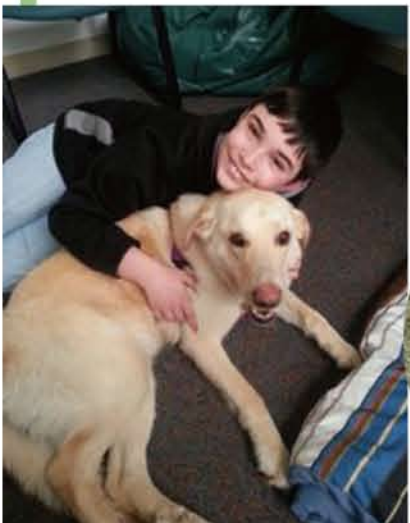
これから数年をかけて、動物の与える効果について調べていきます。ビデオカメラ、データ収集アプリなど最新

動物や自然とのふれあいや活動が、人間の健康にもたらす効果を、科学的に証明することは大変難しいことです。

動物の世話をすることで、多くの子供たちが週に一回、インターンやスタッフとラームにやっています。

動物が私たちに与えてくれる安らぎ、動物の世話から学ぶ責任感、達成感、子供たちの成長、結果は3-5年後くらいになる見込みです。

長に大きな影響を与えます。その効果を科学的に証明できると、動物たちが私達の社会で果たす役割、立場が大きく変わってくるのではないかと思います。3000-5000のデータポイントが取れるので、大規模な調査となります。



15th Triennial IAHAIO Conference

The Sam and Myra Ross Institute Green Chimneys · Brewster, New York

April 12 - 14, 2019 Science Meets Practice: Creating Healthy Environments

for People and Animals Innovative · Interactive · International Plenaries, workshops, research presentations and keynotes; among 200 animals at Green Chimneys.

Key dates and details www.greenchimneys.org/iahaio2019

頌春 2019年